

令和7年度

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果

スポーツ庁は、「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（調査対象：本町小学校5年生（男子19名、女子15名）と中学校2年生（男子16名、女子15名））の結果を12月に公表しました。次の表は体力テストの結果です。水色の箇所は、全国平均値を上回っていることを表しています。体力合計点をみると、本町の小学生・中学生は共に全国平均を下回る体力水準を示しました。

（調査実施期間 5月～7月）

【小学校】 5年		握力(kg)	上体 おこし (回)	長座体 前屈(cm)	反復 横とび (点)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立幅と び (cm)	ソフト ボール 投げ(m)	体力合計 点(点)
男子 19名	全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
	全道	16.76	19.33	34.37	42.49	47.16	9.67	152.02	21.85	53.60
	浜中町	17.21	18.15	38.90	40.70	42.25	10.35	150.50	20.05	51.89
女子 15名	全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
	全道	16.29	18.12	38.71	40.25	36.13	9.95	144.25	14.04	54.61
	浜中町	16.25	16.81	36.69	36.94	32.07	10.62	127.31	16.00	50.13

【中学校】 2年		握力(kg)	上体 おこし (回)	長座体 前屈(cm)	反復 横とび (点)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立幅と び (cm)	ハンドボ ール投げ (m)	体力合計 点(点)
男子 16名	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
	全道	29.63	25.61	43.58	50.36	75.24	8.17	195.81	20.57	41.05
	浜中町	27.94	21.18	39.35	46.76	63.06	8.92	179.47	20.76	33.56
女子 15名	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
	全道	23.17	20.85	45.62	44.40	46.84	9.16	162.75	12.34	45.62
	浜中町	21.75	20.41	42.13	46.06	40.60	9.69	163.88	13.71	43.60

一方、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問では、小学校・中学校ともに男子は『好き』『やや好き』と答えた割合が全国平均を上回った一方、女子は全国平均を下回る結果となり、性別による意識の差が見られました。

また、スクリーンタイム（スマホ等の電子機器の画面を見ている時間）の分析では、小中学校の男女すべてにおいて全国平均を上回っており、日常生活における運動の機会が限られている状況がうかがえます。今後は運動への意欲が見られる児童生徒を中心に、学校や家庭、地域が連携し、日常的に体を動かす機会を意図的に増やしていくことが求められます。

各学校では、児童生徒の実態をもとに「令和8年度体力向上推進計画」を策定し、全教職員で学校独自の取組を進めて参ります。今後も運動やスポーツをすることが好きな子どもの育成を目指した授業の工夫・改善等の取組を一層推進するとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの運動習慣の形成に向けて取り組んでいきます。

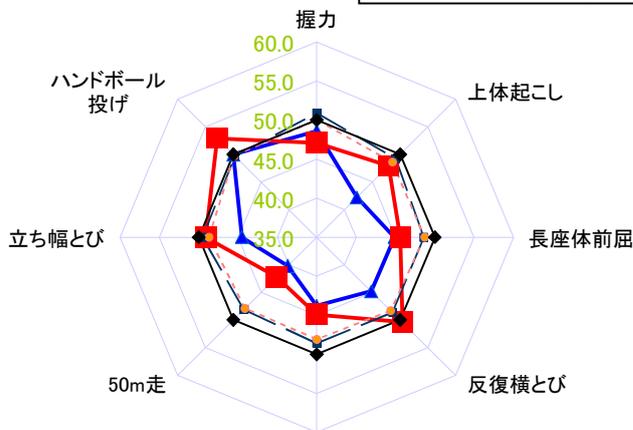
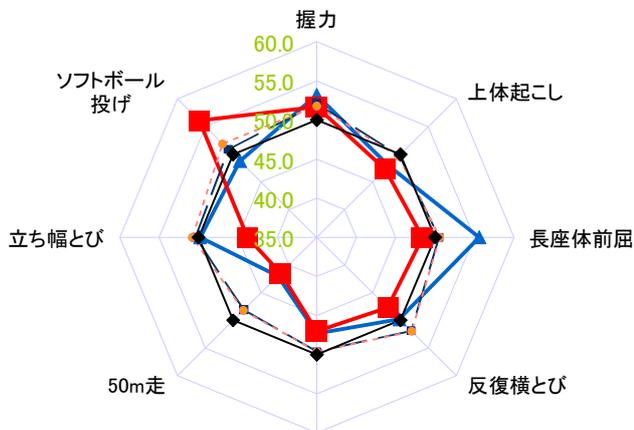
■ 浜中町内小・中学校の状況及び体力向上策(学校数:小学校4校・児童数34名、中学校4校・生徒数31名)

【各種目の状況】

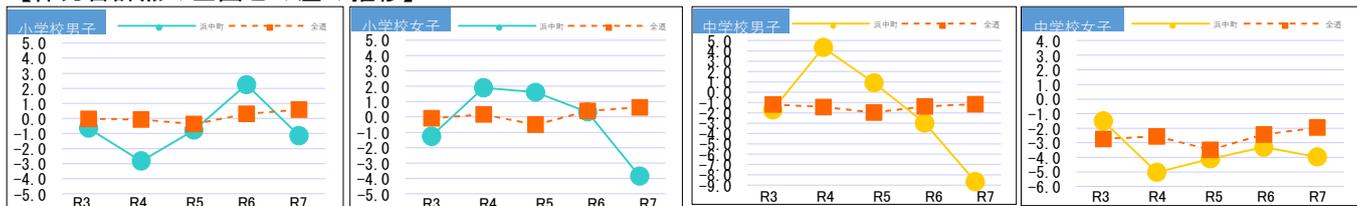
全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示

【小学校】

【中学校】

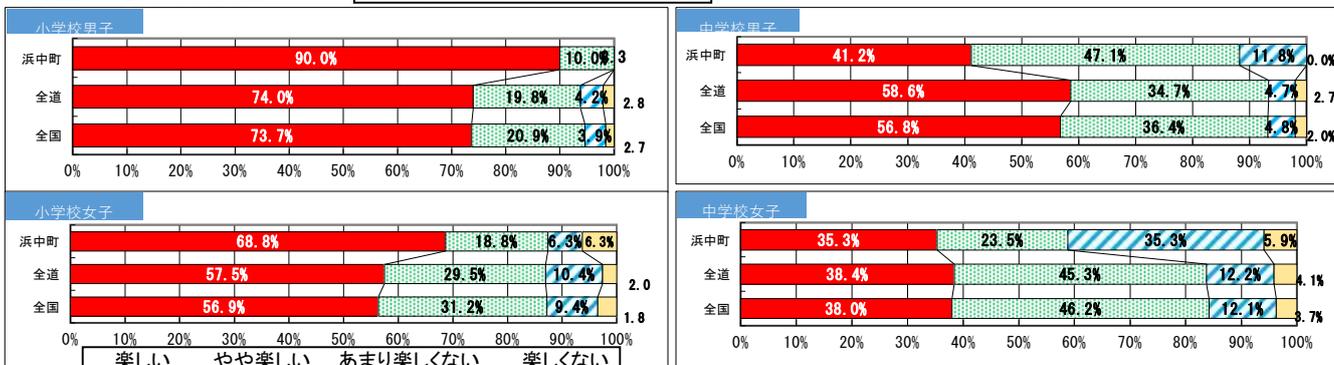


【体力合計点の全国との差の推移】

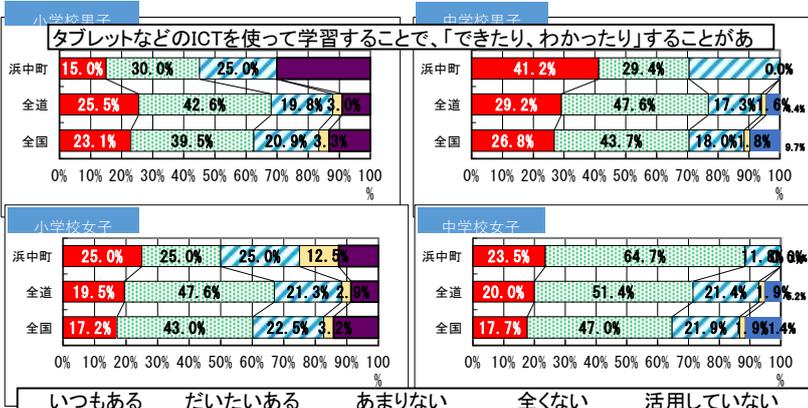


【児童生徒質問紙調査】

【体育(保健体育)の授業は楽しいですか】



【分析】



小学校
50m走に課題が見られ、瞬発力や走動作の習熟に関わる運動経験が十分に積み重なっていない可能性がうかがえる。一方で、女子のソフトボール投げ、男子の長座体前屈は全国平均を上回っており、投動作や柔軟性に関する取組の成果が一定程度表れている。
児童質問紙では、運動の実施頻度や運動に対する意識にはばつきが見られ、日常的に体を動かす機会の差が体力要素ごとの結果に影響していることが示唆される。今後は、体育授業において走運動を系統的に位置付けるとともに、休み時間や家庭生活も含めた運動機会の充実を図り、基礎的な体力の向上を継続的に進めていくことが課題である。

中学校
50m走に課題が見られ、瞬発的な走力やスピードを高める基礎的な運動経験が十分に積み重なっていない可能性がうかがえる。一方、種目によっては男女間で結果に差が見られ、それぞれの体力特性やこれまでの運動経験の違いが影響していると考えられる。
生徒質問紙では、ICTを活用した学習により「できた」「分かった」と実感する生徒が多く、小学校段階と比べて学習への理解度や主体性が高まっている様子がうかがえる。こうした成功体験は指導の成果といえる一方、運動の実施状況や意識には個人差があり、走力向上に向けては、体育授業において動きのポイントを可視化するなど、ICTを活用した分かりやすい指導の工夫を進めることが課題である。

【浜中町の体力向上策】

- ◎ 浜中町統一様式の「体力向上推進計画」に基づいた学校全体での体力向上の取組の促進
- ◎ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果及び浜中町1校1実践の取組を踏まえた「体力向上推進計画」「体力向上プラン」の策定及びICTの効果的な活用